

- 問1 1910年代後半、日本は第一次世界大戦の影響で空前の好景気を迎えました。この時期、日本の国際的な経済的立場において生じた変化として、正しい説明はどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 輸入が輸出を大幅に上回る輸入超過が続いたため、深刻な外貨不足に陥り、他国から資金を借りる「債務国」となった | 2. 物価の急激な下落によって国民生活が安定し、アジアで唯一の金本位制を維持する国となった | 3. 軍需産業の縮小により経済が一時的に停滞したが、その後、農業中心の経済構造へと回帰した | 4. 輸出が大幅に拡大して多額の外貨を獲得した結果、海外へ資金を貸し出す「債権国」へと転換した |
|--|---|---|---|
- 問2 千九百十九年に制定されたワイマール憲法が、その後の世界の憲法に大きな影響を与えた理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 植民地の独立を全面的に認め、全ての民族が自決権を持つことを世界に先駆けて宣言したから。 | 2. 国家が個人の経済活動や生活に介入し、国民の間らしい生活を保障する社会権の考え方を取り入れたから。 | 3. 世界恐慌に対応するため、公共事業を中心としたニューディール政策を憲法の中で義務付けたから。 | 4. ロシア革命の影響を強く受け、私有財産を完全に否定する社会主義的な統治体制を世界で初めて確立したから。 |
|--|---|--|---|
- 問3 第一次世界大戦の甚大な被害を反省し、世界平和の維持と国際協力を目的として1920年に発足した、史上初の常設国際組織の名称として正しいものを選択してください。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|---------|---------|
| 1. 万国平和会議 | 2. 平和維持軍 | 3. 国際連合 | 4. 国際連盟 |
|-----------|----------|---------|---------|
- 問4 大正時代、政治学者である吉野作造が提唱した思想で、天皇主権の憲法の下にあっても、政治の目的は民衆の幸福にあり、政策決定は民衆の意向に従うべきであるとする考え方を何といいますか。 (2017年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|
| 1. 自由民権運動 | 2. 社会主義 | 3. 民本主義 | 4. 三民主義 |
|-----------|---------|---------|---------|
- 問5 大正デモクラシーの潮流の中で起きた第一次護憲運動において、民衆や政治家が藩閥政治を打破するために掲げたスローガンとして正しいものを選択してください。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|--------------|--------------|-----------------|
| 1. 挙国一致・国家総動員 | 2. 閥族打破・憲政擁護 | 3. 尊王攘夷・廃藩置県 | 4. 五箇条の御誓文・版籍奉還 |
|---------------|--------------|--------------|-----------------|
- 問6 1915年、日本が中国の袁世凱政府に対して突きつけた「二十一か条の要求」が出された当時の国際的な背景として最も適切なものはどれか。 (2023年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 第一次世界大戦が勃発し、欧米列強がヨーロッパでの戦いに没頭してアジアへの関心が薄れていた。 | 2. 世界恐慌の影響で各国の経済が混乱し、日本が資源確保のために満州事変を引き起こした直後であった。 | 3. 第二次世界大戦においてドイツと同盟を結んだ日本が、アジアにおけるドイツの領土を保護しようとした。 | 4. 日露戦争の勝利により、日本が満州におけるロシアの権益をすべて継承した直後であった。 |
|--|--|---|--|
- 問7 第一次世界大戦後の1921年から1922年にかけて、アメリカの呼びかけによって開催された国際会議は何ですか。この会議では、海軍の主力艦の保有量を制限することや、太平洋地域の現状維持などが話し合われました。 (2026年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|-----------|-----------------|-----------|
| 1. ワシントン会議 | 2. 国際連盟総会 | 3. サンフランシスコ平和会議 | 4. バリ講和会議 |
|------------|-----------|-----------------|-----------|
- 問8 第一次世界大戦では、前線の兵士だけでなく、銃後の国民全体が兵器生産などの戦争協力に動員されることとなりました。このような戦争形態を何と呼びますか。 (2026年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|-------|---------|
| 1. 局地戦 | 2. 総力戦 | 3. 冷戦 | 4. ゲリラ戦 |
|--------|--------|-------|---------|
- 問9 第一次世界大戦による「大戦景気」の影響で、日本は国際的な経済的地位をどのように変化させましたか。当時の背景とあわせて、最も適切なものを選んでください。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 重工業製品の輸入が困難になったため、鎖国に近い経済体制へと移行した | 2. 多額の借金がある債務国から、他国に資金を貸し出す債権国へと転じた | 3. 輸出が伸び悩んだため、政府が外国から多額の借金を行う債務国となった | 4. 国内の物資不足により、食料品の輸出を全面的に禁止する措置をとった |
|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
- 問10 1920年に設立された国際連盟への加盟状況を記した資料において、日本とアメリカ合衆国の関係について説明した文として、正しいものを選択してください。 (2021年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 日本とアメリカはともに常任理事国として設立時から参加したが、1933年に日本が脱退した際、アメリカも同時に連盟を離れた。 | 2. 日本は設立当初から常任理事国として加わっていたが、アメリカは連盟の創設を提唱したにもかかわらず、議会の反対により加盟しなかった。 | 3. 日本は1920年の設立時から加盟していたが、後に国際社会の制裁として除名処分を受け、アメリカは準加盟国としてのみ参加した。 | 4. 日本は当初は加盟していなかったが、1933年に常任理事国となり、アメリカは設立当初から脱退時まで一貫して加盟し続けた。 |
|---|---|--|--|
- 問11 1918年、ロシア革命に干渉することを目的に行われたシベリア出兵は、当時の日本国内の経済や社会に大きな混乱をもたらしました。この出来事が全国的な「米騒動」へと発展した直接的な理由として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 戦場となる地域への米の輸出を政府が禁止したため、農家の収入が激減したため。 | 2. 第一次世界大戦の影響で海外からの米の輸入が完全に途絶え、供給不足に陥ったため | 3. 軍隊の食料を確保しようとした商人が米を買い占めたことで、米の価格が急騰したため。 | 4. シベリアへの出兵費用を賄うために、政府が米に対して臨時の重税を課したため。 |
|--|---|---|--|
- 問12 「大戦景気」と呼ばれた時期の日本の産業の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 世界恐慌による経済の混乱を収拾するため、政府が重要産業統制法を制定し、軍需産業を最優先とする統制経済へと移行した。 | 2. 鉄鋼業や造船業、化学工業などの重化学工業が大きく発展し、産業構造の中心が軽工業から重化学工業へと移り変わり始めた。 | 3. 地租改正によって安定した税収が確保されたため、農業分野の機械化が飛躍的に進み、米の輸出が経済の柱となった。 | 4. 日清戦争後の下関条約で得た資金をもとに、軽工業の民営化が進み、民間企業による紡績業が初めて重化学工業の生産額を抜いた。 |
|--|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 輸出が大幅に拡大して多額の外貨を獲得した結果、海外へ資金を貸し出す「債権国」へと転換した	日露戦争以降、日本は戦費の調達などのために海外から多額の資金を借りている「債務国」の状態にありました。しかし、大戦景気による圧倒的な輸出超過（貿易黒字）の結果、1910年代後半には逆に他国へ資金を貸し出す「債権国」へと劇的な変化を遂げました。これは日本の経済的自立を象徴する出来事です。
問2	答え 2 国家が個人の経済活動や生活に介入し、国民の人間らしい生活を保障する社会権の考え方を取り入れたから。	産業革命以降、自由放任の経済によって貧富の差が拡大した背景があり、国家が積極的に国民の生活を支える必要性が生じました。ワイマール憲法は、それまでの「国家から干渉されない自由（自由権）」に加え、国家に対して「人間らしい生活を求める権利（生存権・社会権）」を世界で初めて認めた画期的な憲法でした。
問3	答え 4 国際連盟	第一次世界大戦は、国家の全資源を注ぎ込む「総力戦」となり、これまでにない大規模な犠牲者を出しました。この惨禍を繰り返さないために、アメリカのウィルソン大統領が「十四か条」の中で提唱し、1920年に国際連盟が設立されました。後の第二次世界大戦後に設立される国際連合と混同されやすいですが、時期や背景の違いを理解することが重要です。
問4	答え 3 民本主義	吉野作造は、大日本帝国憲法における天皇主権と、近代的な民主主義を両立させる理論としてこの思想を説きました。この考え方は、民衆の政治参加を求める「大正デモクラシー」の理論的支柱となり、のちの普通選挙法制定などの動きを後押しすることになりました。
問5	答え 2 閥族打破・憲政擁護	第一次護憲運動では、特定の藩出身者による政治を終わらせることを意味する「閥族打破」と、立憲政治の原則を守ることを意味する「憲政擁護」が合言葉となりました。この運動は、それまで一部の特権階級によって行われていた政治に対し、議会や世論の力が内閣を倒すことができることを示した画期的な出来事でした。「尊王攘夷」は幕末、「国家総動員」は戦時体制下の用語であり、運動の性質が異なります。
問6	答え 1 第一次世界大戦が勃発し、欧米列強がヨーロッパでの戦いに没頭してアジアへの関心が薄れていた。	第一次世界大戦中、欧州諸国がアジアに目を向ける余裕がない状況を利用し、日本は中国における勢力拡大を図りました。日本は日英同盟を理由に参戦し、当時ドイツの拠点があった中国の山東省などを攻略した上で、これらの権益を日本に譲るよう中国政府に要求しました。これが「二十一か条の要求」であり、のちに五・四運動などの激しい反日運動を招く原因となりました。
問7	答え 1 ワシントン会議	第一次世界大戦後の国際秩序を安定させるために開催された会議です。アメリカが主導し、軍備制限（軍縮）や中国の主権尊重、日英同盟の廃棄などが決定されました。これにより「ワシントン体制」と呼ばれる東アジア・太平洋の新しい国際秩序が形成されました。
問8	答え 2 総力戦	第一次世界大戦は、それまでの戦争とは異なり、国の経済活動や国民の生活すべてを戦争の勝利のために注ぎ込む体制へと変化しました。この大規模な動員体制は、長期化する近代戦を支えるための不可欠な要素となりました。
問9	答え 2 多額の借金がある債務国から、他国に資金を貸し出す債権国へと転じた	第一次世界大戦中に輸出額が激増したことで、日本には多額の外貨が流入しました。これにより、明治以来続いていた外国への借金（債務）を返済し、逆に外国へ資金を貸し付ける「債権国」へと劇的な変化を遂げました。この時期、造船業や製鉄業などの重化学工業も大きく発展しました。
問10	答え 2 日本は設立当初から常任理事国として加わっていたが、アメリカは連盟の創設を提唱したにもかかわらず、議会の反対により加盟しなかった。	国際連盟はアメリカの大統領ウィルソンの提案によって設立されましたが、アメリカ国内では「孤立主義」を支持する議会が他国の紛争に巻き込まれることを懸念して反対したため、結局アメリカは加盟しませんでした。一方、日本は設立当初から常任理事国として国際秩序を支える立場にありましたが、1933年に満州事変後のリットン調査団の報告書が採択されたことに反発し、連盟を去る道を選びました。
問11	答え 3 軍隊の食料を確保しようとした商人が米を買い占めたことで、米の価格が急騰したため。	ロシア革命への干渉を目的としたシベリア出兵が決定されると、軍用米の需要が高まることを見越した商人たちが米を買い占め、売り惜しみをを行いました。これにより米の価格が急騰し、生活に困窮した富山県の漁村の主婦たちが米の安売りを求めて立ち上がったことが、全国的な米騒動へとつながりました。
問12	答え 2 鉄鋼業や造船業、化学工業などの重化学工業が大きく発展し、産業構造の中心が軽工業から重化学工業へと移り変わり始めた。	第一次世界大戦による船舶不足を受けて造船業が活発化したほか、鉄鋼、薬品、染料などの輸入が途絶えたことで、これらの国内生産が促されました。その結果、日本の産業構造はそれまでの繊維工業（軽工業）中心から、金属・機械・化学などの重化学工業へと比重を移していくことになりました。この時期の発展により、日本の資本主義は確立期を迎えました。